

## 年間研修計画の工夫

### 高等学校

#### 生徒支援委員会を中心とした 校内研修の取組

#### 活用した資料

校内研修プログラム P4  
—校内研修プログラムの年間の活用  
例—

### ○ 実践の概要

本校では、特別な教育的支援を必要とする生徒の実態や指導方法等について、年間を通じて検討が行えるよう計画を立て、研修等に取り組んでいます。生徒支援委員会が中心となり、特別な教育的支援が必要な生徒についての情報の収集と共有、関係機関との連携を行うなどして、個に応じた指導や支援の充実に役立てています。

時期	内容	成果
4月	○ 新年度の引継ぎ ・個別の指導計画を作成している生徒について、中学校からの情報収集、全教職員での共有	学習や生活の状況について全教職員で情報を共有し、必要な指導や支援について考えることができた。
5月	○ 第1回生徒支援委員会 ・特別な教育的支援を必要とする生徒についての実態把握及び情報共有	生徒の実態について共通理解を図り、特別な教育的支援が必要な生徒についての配慮事項を確認することができた。
6月	○ 第2回生徒支援委員会 ・特別な教育的支援を必要とする生徒の対応についての情報共有 ・特別な教育的支援を必要とする生徒の指導・面談記録作成	特別な教育的支援を必要とする生徒についての情報共有ができるよう、委員会で対応策を考えるとともに、記録を作成することにより、全教職員で一貫した指導や支援を行うことができた。
7月	○ パートナー・ティーチャー派遣事業 ・ケース会議における個別の指導計画の作成	専門的立場からの助言により、ケース会議の中で具体的な配慮や対応について検討し、共通理解を図ることができた。また、それを個別の指導計画の作成に反映させ、改善を図ることができた。
8月	○ 個別の指導計画の活用（～2月） 第3回生徒支援委員会 ・特別な教育的支援を必要とする生徒の対応についての情報共有	パートナー・ティーチャー派遣事業での助言を基に、特別な教育的支援を必要とする生徒への具体的な指導や支援の手立てを検討し、個別の指導計画を活用しながら、周知することができた。
9月	○ 第4回生徒支援委員会 ・特別な教育的支援を必要とする生徒についての現状の把握、情報共有及び校内研修の内容の検討	生徒の現状について校内で共通理解することができた。また、教職員の専門性の向上を図るための校内研修の内容について検討することができた。
11月	○ パートナー・ティーチャー派遣事業 ・ケース会議 ○ 校内研修 ・特別な教育的支援を必要とする生徒への対応の在り方についての研修	生徒の変容について確認し、今後の支援の方向性を検討することができた。また、校内研修では、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの講話により発達障がいについての理解が深まった。

【特別支援教育に係る校内研修の年間計画】

### ○ 実践の成果

本取組では、生徒支援委員会が中心となり、年間を通じた研修等を行うことにより、生徒の実態がより明らかになり、学習面や生活面での配慮、指導や支援について、全教職員で共通理解を図ることができました。

また、ケース会議において、生徒への関わり方について助言を受けることにより、日常の指導や支援の考え方や方法を見直し、様々な指導場面において特別支援教育の視点を生かした指導ができるようになりました。